

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

文部科学省・国立教育政策研究所

1 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)	
調査対象	①児童生徒：小学校6年生、中学校3年生 ②学 校：小学校等（約19,000校）、中学校等（約10,000校）	
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査	
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。	
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・多様な児童生徒の状況把握 ・生徒質問でのランダム方式の試行 ・結果公表の内容・スケジュールの改善	

2 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表スケジュール

7月14日（月）	結果公表①（正答率・IRT バンド分布などの全国平均） 学校向け帳票、個人票の提供
7月22日（火）	教育委員会向け帳票の提供
7月31日（木）	結果公表②（全国データに基づく分析結果）
8月以降（秋頃目途）	結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

7月中に個人票を児童生徒に返却する予定の学校※
小学校：34.2%、中学校：46.7%

※令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施
後アンケート」の集計結果（速報値）。

3 CBT調査の実施状況

※調査対象の児童生徒のいる各学校から提出された「調査終了報告」、令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」、及びMEXCBTに記録された結果に基づき集計。

「中学校理科」 の実施状況

参加した学校数（中学校等）：9,611校
 [うち「中学校理科」を実施した学校数：9,599校（実施率 99.88%）
 うち「中学校理科」を実施しなかった学校数：12校（未実施率 0.12%）]

「中学校理科」を実施した学校数				「中学校理科」を実施しなかった学校数	
調査実施日に調査を実施、完了した学校数	調査実施日に調査が完了せず、後日実施を行った学校数			実施準備・操作面の理由	その他（生徒の体調不良等）
	ネットワーク・端末等の理由	実施準備面の理由	その他		
9,497校 (98.82%)	18校 (0.19%)	26校 (0.27%)	58校 (0.60%)	4校 (0.04%)	8校 (0.08%)

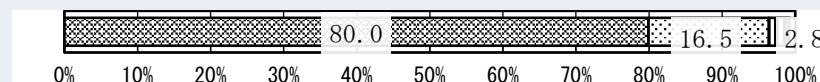
「中学校理科」を実施しなかった学校の不実施理由

- ◆実施準備・操作面の理由：4校 （例）後日実施期間があることを知らなかった／学習eポータルのアカウントを準備していなかった
- ◆その他（生徒の体調不良等）：8校

生徒質問調査の結果より

（質問）今年度の中学校理科の教科調査は、コンピュータを使つての実施でしたが、機器の不具合等の影響で解答しにくいと感じることがありましたか。

全くなかった：80.0% 時々あった：16.5%
 多くあった：2.8% 無回答：0.7%



学校外実施 の状況

オンライン方式の中学校理科又は児童生徒質問調査を学校外で実施した児童生徒数

※令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校児童：2,887人 中学校生徒：1,639人

4 支援が必要な児童生徒の参加状況

※令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校（回収率：65.7%）			中学校（回収率：62.3%）		
長期欠席児童	障害がある児童	日本語指導が必要な児童	長期欠席生徒	障害がある生徒	日本語指導が必要な生徒
11,314人	26,545人	2,626人	14,893人	8,322人	1,635人

5

全国の正答率・IRTスコア結果概要

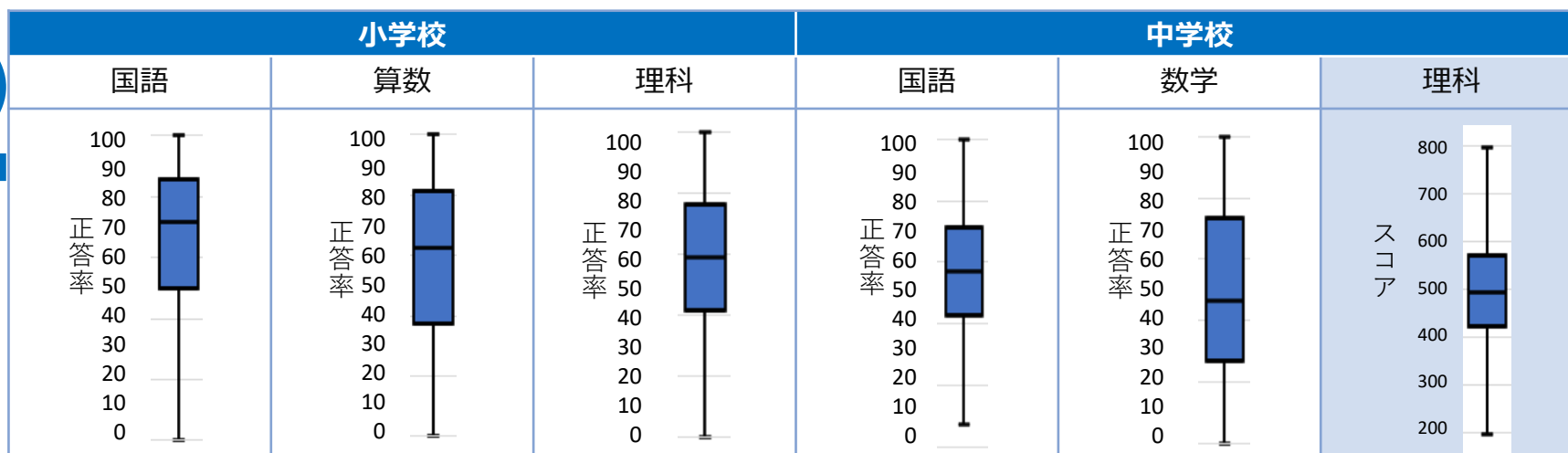
※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

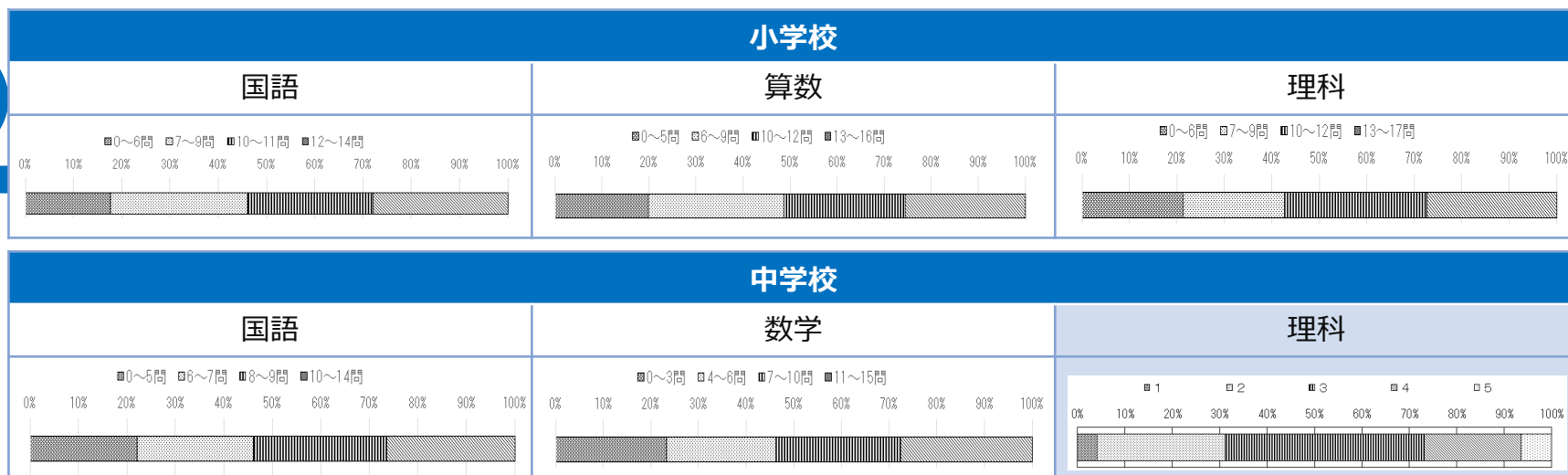
小学校			中学校		
国語	算数	理科	国語	数学	理科
9.4/14 問 (67.0%)	9.3/16 問 (58.2%)	9.7/17 問 (57.3%)	7.6/14 問 (54.6%)	7.3/15 問 (48.8%)	505

※各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

全国の正答率・
IRTスコアの分布



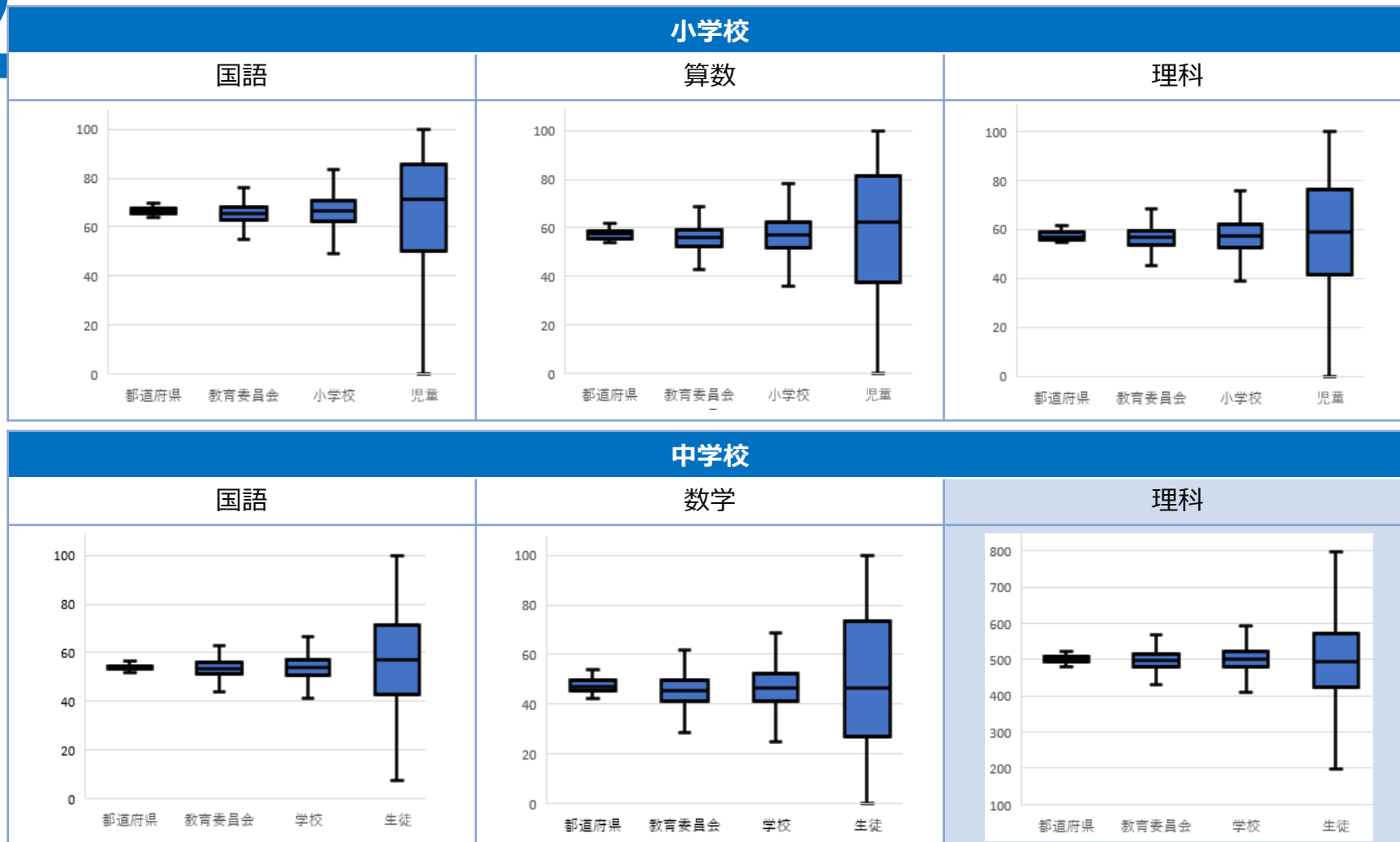
正答数・IRTバンド
ごとの層分布



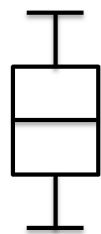
様々な集計単位で見る
正答率・スコアの
ばらつき

※都道府県・指定都市別
データに基づく分析結果
は、令和7年8月以降に
公表予定。

- ・各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきに大きな変化は見られない。
- ・特に、都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。



箱ひげ図



最大値
第三四分位（75パーセンタイル）
中央値（50パーセンタイル）
第一四分位（25パーセンタイル）
最小値

パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、小さい方から数えて何%
目の値は、どれくらいかという見方をする統計的表示法

6 質問調査結果（児童生徒、学校）【速報】



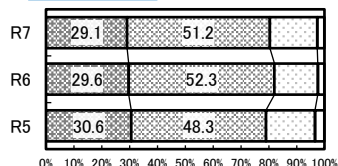
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている。

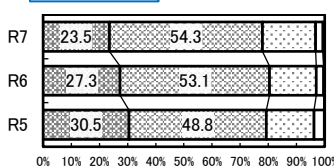
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校



中学校



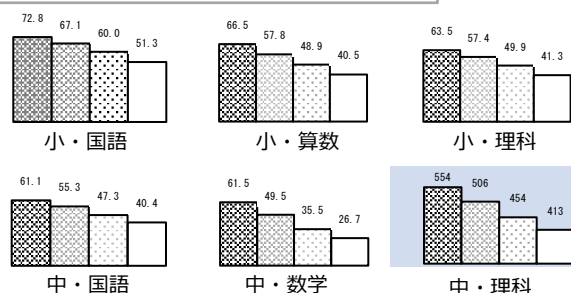
- ◆ 「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

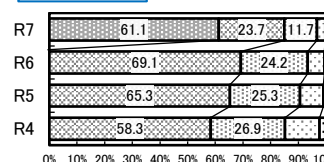
ICT機器の活用

- ◆ ICT機器を「**ほぼ毎日**」「**週3回以上**」活用する学校は、**小学校97%、中学校95%**（いずれも前年比4ポイント増）。

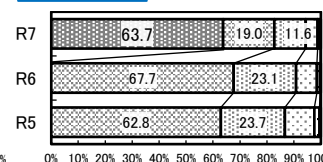
【学校】タブレットなどのICT機器を使用した頻度

☒ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ☒ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）
☒ 週3回以上 ☒ 週1回以上 ☐ 月1回以上 ☐ 月1回未満

小学校



中学校



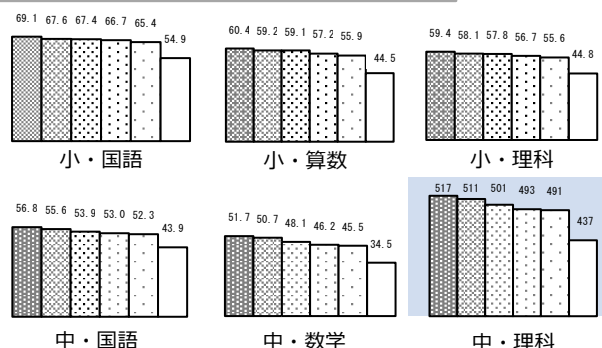
- ◆ ICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に、一定の関係が見られる。

児童生徒質問「PC・タブレットなどのICT機器を使用した頻度」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

【児童生徒】タブレットなどのICT機器を使用した頻度

☒ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ☒ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）
☒ 週3回以上 ☒ 週1回以上 ☐ 月1回以上 ☐ 月1回未満

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



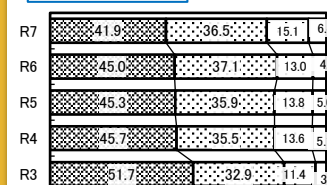
各教科への興味・関心、理解度

- ◆ 「**授業の内容がよく分かる**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコア**が高いが、全教科で「よく分かる」児童生徒の割合が前回調査から減少。

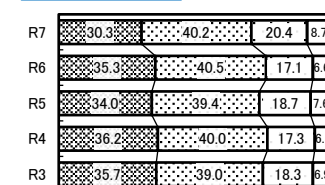
授業の内容がよく分かる

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小・算数



中・数学



※国語、理科でも同様の傾向。

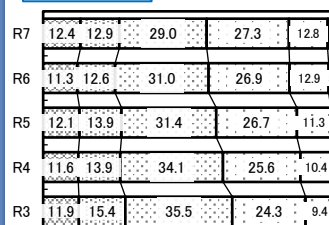
学校外での過ごし方

- ◆ 学校の授業時間以外の勉強時間は、小・中学生とも**令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向**。

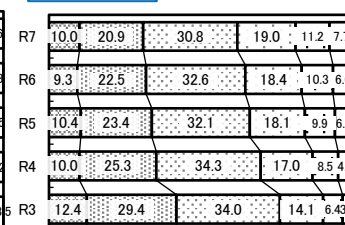
平日の勉強時間（学習塾で勉強している時間等を含む）

☒ 3時間以上 ☒ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 30分以上、1時間より少ない
☐ 30分より少ない ☐ 全くしない

小学校



中学校



※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。